

## 千葉公園の歴史と自然

岩澤とし子(千葉市)

開催日：2010年11月3日(水)

場 所：千葉公園

参加者：22名、千葉市3名

担当指導員：木下順次 前田佳胤

「千葉公園の歴史と自然」の観察会は、好天に恵まれた文化の日となり、小学生の親子写生大会などもあり賑やかな園内でした。正門のヒマラヤスギの元に参加者22名と木下、前田両氏の案内に市から斎藤課長さん、職員の方2名が集まりました。

千葉市には戦前から 羽衣、亥鼻、千葉の三公園があったそうです。戦後一面の焼け野原となった台地に昭和24年に千葉公園の復興が計画され、おかげで市街地の中心に広大な公園が残されているのです。初めに赤と黄の紅葉の仕組みの説明を受け、「此处は、昔々はどんな所だったでしょう」の課題を解きにスタートしました。

階段を降りた広場はイチョウ・シマサルスベリ・ケヤキの黄葉が美しく、クスノキ・アカマツなどの大木があります。牡丹・芍薬・アガパンサス・水仙・等 季節ごとに楽しめる花壇を進みますと、戦時陸軍の鉄道連隊が鉄道架設の訓練をした橋脚の一部が遺されています。

荒木山で公園一番の巨木のクスノキを観察、幹周り4.3m、もありますが、傍の切り株から年輪や方角を観察しますと、戦後植えられた木と分りました。

満州事変で殉職された荒木大尉を祀られた高台は、昭和60年まで展望台があり、富士山が望め、花見の場所として賑わったそうですが、今は高層建築に遮られ陸軍と彫られた小さな石碑が微かな名残りを見るのみです。

大賀博士が昭和26年東大検見川農場で発見された古代蓮の種は、二千年の時を経て開花し、その後各地に植栽され、オオガハスは千葉市の花となりました。

綿打池とは、江戸時代の綿打職の太郎兵衛さんの機転で、ひょうたん池(当時は広々としたひょうたんの形をしていました)の地籍を獲得した功績の顕彰名だったと知りました。

弁財天には蛇の祠なども安置され、江戸時からの歴史ある弁天様で地域の信仰を集めています。

山有り池有りの公園の一周で、その昔は「海辺の平地だった」が初めのクイズの答でした。最後に鉄道連隊の遺構：コンクリートのトンネルを見学して、現在から江戸時代へ400年のタイムトラベルが終了しました。今まで知らずにいた多くのことを教えていただき、ますます身近な親しい公園となりました。写真やパネルを使つての解り易い説明をしていただき、ありがとうございました。